

活性化

産業・商業

～新たな価値をつくる都市をめざす～

基本方針

京都のまちに脈々と受け継がれてきた匠のわざ、企業のもつ優れた技術力、知の集積拠点である大学など、これまで築き上げてきた「京都力」を生かし、「ものづくり」、「ことづくり」、「ひとづくり」により、京都ならではの産業・商業振興を進める。また、市民の健康と豊かな食生活を維持するため、流通体制の整備を進める。

みんなでめざす10年後の姿

- ① 産業連関都市として、生活の豊かさを実感できるまち
- ② 付加価値の高いものづくりやサービスを創発するまち
- ③ 京都ならではの「美」、「感性」を生かし、独自性と創造性を生み出すまち
- ④ 商いでにぎわい、魅力あふれるまち
- ⑤ 働くことを希望するすべてのひとが就業できるまち

■市民と行政の役割分担と共に

- 産業・商業の振興が市民生活の向上と地域社会の活性化に寄与することを理解し、市内需要の拡大に努める

市民

- 高い教養と専門的能力を有する人材を育成
- 教育、研究の成果等を地域経済の発展に還元

大学

＜共済の方向性＞

産学公連携の下、地域経済の発展及び市民生活の向上を図る

- 地域経済の活力の担い手として企業活動を行い、地域の雇用創出と市民生活の向上等に努める

企業・事業者

- 企業・事業者、大学と地域がともに活動できるよう、京都の魅力の発信や事業環境の整備などの施策を総合的かつ計画的に推進

行政

推進施策

- ① 多様で活力ある中小・ベンチャー企業の育成と発展支援
- ② 産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出
- ③ 京都の強みを生かした事業環境の整備
- ④ 伝統産業の活性化と新たな展開の推進
- ⑤ 地域の特性に応じた商業振興
- ⑥ ソーシャルビジネス(社会的企業)*への支援
- ⑦ 市民に安心していただける流通体制の強化
- ⑧ 雇用の維持・確保と新たな雇用創出に向けた取組の推進

* ソーシャルビジネス(社会的企業)：社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む事業体

観光

～いよいよ旅の本質*へ 世界が共感する観光都市をめざす～

* 旅の本質：ひとに出会い、風景に出会い、心打たれる出来事に出会い、そして新たな自分自身に出会う。旅を通して、気付き、学び、癒され、元気をもらい、成長し、人生が深く、豊かになること。

基本方針

「5000万人観光都市」を実現した京都観光は、「量の確保」とあわせて、「質の向上」を図り、「旅の本質」を堪能できる世界で一番のまちをめざす。そのため、「観光スタイルの質」と「観光都市としての質」の向上に取り組む。

また、京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際MICE*都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～への飛躍をめざす。

* MICE(マイス)：企業のミーティング、企業研修旅行、国際会議、イベントなどの総称

みんなでめざす10年後の姿

- ① 観光スタイルの質が高まっている
- ② 観光都市としての質が高まっている
- ③ 京都観光の新たな主体として市民が存在感を発揮している
- ④ 新たな京都ファンが創出されている
- ⑤ 世界に冠たる国際MICE都市となっている

■市民と行政の役割分担と共に



推進施策

- ① 観光スタイルの質の向上
- ② 観光都市としての質の向上
- ③ 国際MICE都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～への飛躍

基本方針

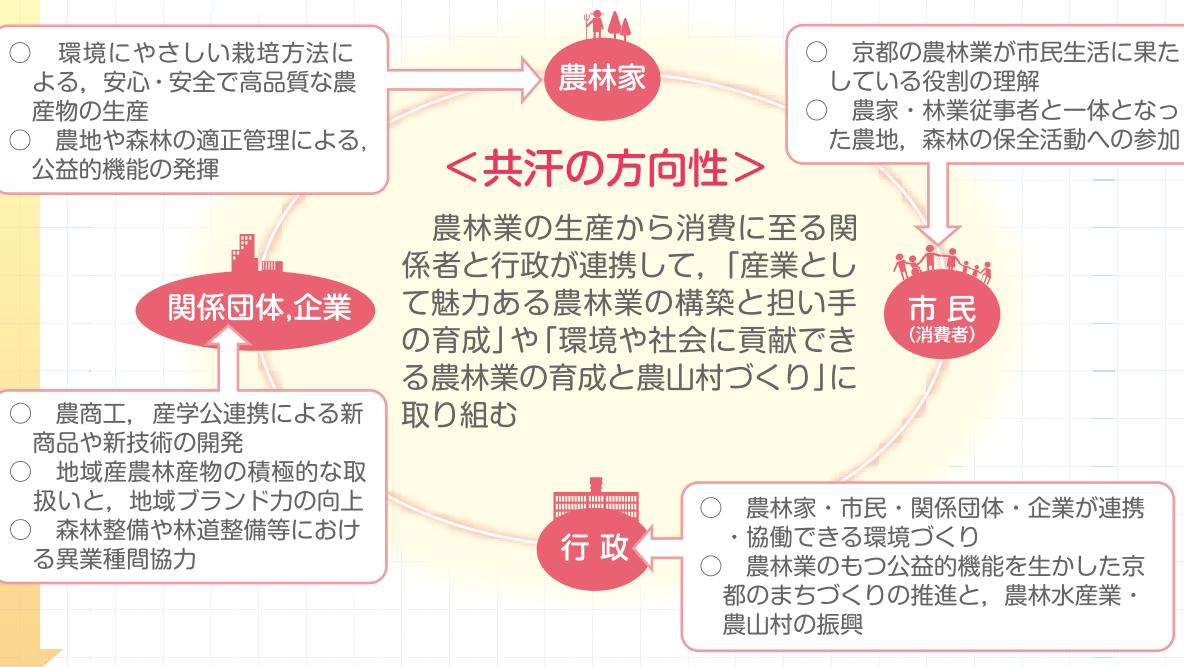
高齢化や後継者不足、農地や森林の荒廃進行に対処するため、職業として魅力ある農林業を再構築し、その魅力を発信することによりさまざまな担い手を確保する。

また、農林業のもつ多面的機能の維持と発揮により、資源循環型産業として社会や環境に貢献するとともに、市民の農林業に対する期待にこたえるため、市民の農林業への参画や農林業を通じた自然とのふれあいの機会を創出していく。

みんなでめざす10年後の姿

- ① 農林業の魅力創出で多様な担い手が育つ環境が整っている
- ② 農林業が環境や社会に貢献できている
- ③ 市民の農林業への参加と理解が進んでいる

■市民と行政の役割分担と共渉



推進施策

- ① 産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成
- ② 環境や社会に貢献できる農林業の育成
- ③ 市民との共渉で築く農林業

大学

～大学の集積が都市の活力を支え高めるまちをめざす～

基本方針

悠久の歴史、伝統的な文化芸術、最先端技術等の京都の魅力とともに、「大学のまち京都」を発信し、国内外の学生をより多く受け入れ、先見性や創造性、卓越した指導力をもつ人材を育成する。また、集積された大学の知を新産業の創出や文化芸術の創造に生かすことにより、魅力と個性にあふれる「大学のまち・学生のまち」をめざす。

みんなでめざす10年後の姿

- ① 京都ならではの「学びの環境」が整った、憧れの「大学のまち」
- ② 世界中から留学生が集まり、国際社会で活躍する人材が育つまち
- ③ 世界に貢献する学術研究都市京都
- ④ まち全体で育てた学生の力による、活気あふれる京都
- ⑤ 京都の発展を支える産学公地域連携が進んだまち

■市民と行政の役割分担と共汗

- 地域・産業との連携をさらに進め、京都ならではの学びの環境を充実させて国内外から多くの学生を集め、教育、研究の成果を地域や産業に還元



<共汗の方向性>

まちを活性化し、住み続けたくなるまちとするため、大学コンソーシアム京都の大学連携の力を生かし、大学と産業界、地域、行政との連携を強化する

- 京都ならではの学びを深め、商店街の振興や伝統文化の継承、福祉等の社会貢献活動等により、まちを活性化しながら、「人間力」を高める



- 大学連携の力をさらに強化し、「学びの環境」を充実させ、国内外に京都の魅力を発信



- 大学の知の集積や学生の力を地域の活性化につなげ、実践的な教育研究の場として学生の力を高める



- 大学の知の集積を活用して産業を活性化し、雇用を創出するとともに、就業体験等により、学生の育成にも貢献

- 大学、産業界、地域との連携により、「大学のまち」、「学生のまち」の魅力を高め、オール京都で発信する
- 大学・学生、産業界、地域間の交流・連携を促進するしくみづくり
- 大学の拡充、都心回帰を促す景観に配慮した施設整備への支援

推進施策

- ① 京都で学び、住み続けたくなる「大学のまち」の実現
- ② 大学の国際化に向けた人材育成と留学生等の受入拡大
- ③ 学生のパワーで活気あふれる「学生のまち」の実現
- ④ 産業の振興と大学教育の充実に向けた産学公地域連携の推進

基本方針

1200年を超える歴史のなかで京都が蓄積してきた日本の文化を広く発信し、世界の国々からの訪問者を積極的に受け入れ、多彩な交流機会を通して新しい文化を創造し続ける国際都市をめざす。また、市民の外国文化に対する関心や理解を高め、多文化が息づくまちづくりを推進する。

みんなでめざす10年後の姿

- ① 世界中のひとびとを引き寄せるまち
- ② 国際社会に大きく貢献するまち
- ③ 多文化が息づくまち
- ④ 市民、民間レベルでの国際交流が定着したまち

■市民と行政の役割分担と共汗

- 市民ひとりひとりが外国の文化に対する関心や理解を高め、国際感覚を養う
- 外国籍市民が知識や能力を生かして地域社会で活躍する
- ボランティア活動や国際交流活動に積極的に参加する

各種団体・機関

- 國際化を推進するために、受入環境を充実する
- ボランティアやNPO、大学、企業、経済団体、公的機関、国際関係機関などのさまざまな主体が連携して積極的な交流活動を行う



＜共汗の方向性＞

京都市国際交流会館を核として、市民やさまざまな団体のネットワークを強化し、それらのパワーを活用して、魅力的で輝かしい国際都市をめざす



- 國際化推進の中核的施設として、情報の受発信、ネットワークづくり、国際交流活動の場づくりを行う

京都市国際交流会館

- 世界のひとびとを引き寄せるため、京都の魅力を積極的に発信する
- 国際関係機関や大使館、姉妹都市をはじめとする外国の都市との連絡調整を行う
- 市民や団体が活動を行いやすくなるよう、情報提供を行う

推進施策

- ① 世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信
- ② 市民主体の国際交流・国際協力の推進
- ③ 外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進

研究会メンバーも共に汗を流していきたい

未来の京都創造研究会とともに検討いただいた研究者の方々とともに、京都市の新しい基本計画が完成したことを喜んでいます。私たちがこれまでの基本計画の在り方や施策分野ごとの議論を始めてから3年がたちました。研究会報告以後、本格的に計画審議が始まり、計画内容が大きく豊かになっていく様子にわくわくしていました。

私自身も研究会メンバーも、この計画に基づく新たな京都のまちづくりに、共に汗を流すことができればと願っています。



新川達郎さん
（同志社大学大学院総合政策科研究科教授）

未来の京都創造研究会座長
新川達郎さん
（同志社大学大学院総合政策科研究科教授）